

国語 第1学年 ちがいをかんがえよう

検討会の想定問答

指摘1: この単元で身に付けることは何か。

返し: 動物が子どもを守る方法を、同じ観点で比べて読む。誰がどのように守るかを説明する大事な言葉を選び、教科書で読んだことと図鑑で調べたことを区別して紹介する。C(1)ウ・C(1)カの学習として、守り方の比べ読みカード。動物名、守る方法、同じところ、違うところ、調べた本を記す。

指摘2: 何をもって学習できたと判断するか。

返し: おおむね満足できる状況は、守り方を表す重要な語や文を選び、読んで確かめたことを友達と共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ウ・C(1)カの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘3: 活動が楽しいだけで終わらないか。

返し: 守り方の比べ読みカードを残す。動物名、守る方法、同じところ、違うところ、調べた本を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ウ・C(1)カに関わる学習の中身を確認する。

指摘4: 難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し: 動物の赤ちゃんのかわいさだけに注目する。異なる観点を混せて比較する。これについて、動物名と守る方法に対応させ、比べる観点を先に決める。図鑑では見出しや説明を教師と確かめ、写真だけから守り方を推測して断定しない。〔知識及び技能〕(2)アとC(1)ウ・C(1)カを切り離さず扱う。

指摘5: 考えが違ったときはどう扱うか。

返し: 教師の結論を選ばせず、「子どもを守る方法には、どんな同じところと違うところがありますか。どの言葉から確かめましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ウ・C(1)カに関わる根拠を話し合う。

指摘6: 本時の評価で態度まで決められるか。

返し: 本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘7: 端末がない学級でもできるか。

返し: 守り方の比べ読みカードは紙に記録できる。動物名、守る方法、同じところ、違うところ、調べた本を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ウ・C(1)カの評価の代わりにしない。

指摘8: 時間が足りないとき、どこを残すか。

返し: 総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ウ・C(1)カで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘9: 図鑑を調べると内容が難しくならないか。

返し: C(2)ウの活動として、読める見出しや短い説明から情報を得る。詳しい分類や生態の網羅を求めず、C(1)ウ・カに沿う重要な言葉と共有を中心にする。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「子どもを守る方法には、どんな同じところと違うところがありますか。どの言葉から確かめましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ウ・C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

